

各問題の着眼点

「応力度」

1 シリーズ

22181

構造文章題としての出題ですが、内容は応力度の問題です。図-2 に鉛直荷重時、図-3 に水平荷重時の曲げモーメント及び柱の鉛直支点反力が書いてあります。問題文で問われているのは「短期の「圧縮応力度と圧縮側曲げ応力度の和」ですので、「短期荷重＝長期荷重＋水平荷重」であることより、図-2 と図-3 の柱の鉛直支点反力と曲げモーメントを足し合わせる事がポイントになります。

17011, 26011, 29011, 03011

圧縮軸力と水平荷重による曲げモーメントによって、片持ち架構の付け根部分の応力度が図-2 の状態となっているという応力度の問題の定番問題です。圧縮軸力による鉛直応力度と、曲げモーメントによる曲げ応力度の足し合わせが図-2 になっているという点を具体的な数式に落とし込むことがポイントとなります。

2 シリーズ

05021

25 年くらい前（平成 5 年）に出題された問題です。

トラスの 4 シリーズ（軸力による伸び量 16051, 21051, 03051）にも出題されている「材に引張軸力が生じることで、材がどの程度伸びるか？」の問題です。

外力が複数存在しているので、材に生じる軸力は一様な値となるのではなく、材の部分によって伸び量が異なることに注意が必要です。

「全塑性モーメント」

1 シリーズ

16011, 01011

T型断面に曲げモーメントのみが外力としてかかっている場合の中立軸位置の問題です。断面に生じている曲げモーメントが降伏曲げモーメント以下の場合、中立軸位置は断面の重心位置となること、断面に生じている曲げモーメントが全塑性モーメントの時の中立軸位置は、圧縮側断面積と引張側断面積の切り替わり部分が中立軸位置となることがポイントです。断面に生じている曲げモーメントが全塑性モーメントの時は、T型断面積を2分する位置が中立軸となることを先に求めて、選択肢を絞ることもポイントです。

2 シリーズ

24011

長方形断面に圧縮軸力と曲げモーメントがかかって全塑性モーメント状態となっている場合の、軸力と曲げモーメントを求める問題です。図-2の応力度状態の圧縮応力度を、引張側応力度と同じ大きさの曲げモーメントによる圧縮応力度と圧縮軸力による圧縮応力度に機械的に分離することがポイントとなります。

22011, 02011, 25011

H型断面に圧縮軸力と曲げモーメントがかかって全塑性モーメント状態となっている場合の、軸力と曲げモーメントを求める問題です。図-2の応力度状態の圧縮応力度を、引張側応力度と同じ大きさの曲げモーメントによる圧縮応力度と圧縮軸力による圧縮応力度に機械的に分離するという計算方法については、長方形断面の時と同じ計算方法ですが、曲げモーメントによる圧縮力及び引張力、圧縮軸力を具体的に計算する時に「力＝断面積×奥行き」という体積ですので、その奥行きが曲げモーメントの場合と軸力の場合で異なることに注意することがポイントです。

28011, 30011, 04011

ロ型断面に圧縮軸力と曲げモーメントがかかって全塑性モーメント状態となっている場合の、軸力と曲げモーメントを求める問題です。上記のH型断面の場合と基本的には同じように計算します。ポイントは長方形断面やH型断面の時と奥行きが異なることです。

04011は、2シリーズの中の応用問題です。

曲げモーメントによる引張力及び圧縮力がかかる位置（重心位置）を求める計算に一工夫必要です。

21011, 23011

3月に行う応用問題の説明を行う力学特別講義で説明します。

「固有周期」

1 シリーズ

19071

1 本柱（1 質点系の串団子）の固有周期の問題です。
まずは、この 1 本柱で、固有周期の基本をおさえます。

1' シリーズ

23071, 26071, 04071

剛な梁に剛接合している柱脚が固定端の門型ラーメン架構の固有周期の計算に用いる柱の剛性 K は $3EI/h^3$ ではなく $12EI/h^3$ になること、門型ラーメン架構の固有周期は、1 本柱の場合に比べて柱の本数に比例すること（柱 2 本のラーメン架構の剛性 K は 1 本柱の剛性 K の 2 倍、柱 3 本のラーメン架構の剛性 K は 1 本柱の剛性 K の 3 倍になる）がポイントです。

2 シリーズ

25071, 28061

電車内で急ブレーキがかかった時に倒れそうになる「慣性力」をイメージしてください。

質量 m に加速度 a を乗じると慣性力（地震力）がかかります。

問題中の「加速度応答スペクトル」は、加速度の値の早見表だと思ってください。

問題文に「TA, TB, TC は T1, T2, T3 のいずれかに対応する」と書いているので、

A, B, C にかかる加速度 a の値は、T1 の 0.5g, T2 の 0.4g, T3 の 0.3g になります。

16071

一見、25071 や 28061 と同じ問題ではないか？と思われるかもしれませんが、問題中には「TA, TB, TC は T1 と T2 との間の値」となっています。

つまり、TA, TB, TC は T1 の 1.0g と T2 の 0.6g の間の数値であることしか読み取れません。この部分が、25071 や 28061 よりは難しい部分です。

QA, QB, QC のそれぞれの具体的な値は計算できませんが、それぞれの大小関係を求めることはできますよね。